

さかきばら News

6号

2023.10

ご自由にお持ち帰りください



多職種連携による循環器集中治療 ～安全・安心な在宅復帰生活を見据えて～



院長補佐・集中治療部運営責任者 近沢 元太

集中治療室(ICU)では、心臓血管外科の待機・緊急手術後をはじめ、補助循環装置(ECMO・IMPELLA・IABPなど)を必要とする最重症例に集学的治療・管理をしています。近年、ますます多様化かつ複雑化する病態や疾病背景への柔軟な対応が求められています。主治医ならびに集中治療専門医が看護師、臨床工学技士、理学療法士、薬剤師などと緊密に連携しています。多職種が協働し、より高度かつ専門性の高い医療サービスの提供に努めています。重篤な循環器疾患を抱える病客さまの早期回復、生命予後改善ならびに、在宅復帰にあわせてロードマップの礎を作成しています。集中治療室においても心のこもった安全で質の高い医療サービスを提供します。

お知らせ

12月29日午後より1月3日まで外来診療を休診します。
急患の診察、検査、手術についてはその間も行っています。

先生
教えて!

冠動脈疾患の救急

循環器内科 副院長 廣畑 敦 がお答えします



Q 循環器疾患で救急受診が必要な病気は?

A 急性冠症候群、急性大動脈解離、急性心不全、急性肺塞栓症などがあります。

なかでも寒い時期に増えるのが急性冠症候群です。暖かい屋内と気温の低い屋外の移動により大きく血圧が変動することで起こりやすくなります。

Q 急性冠症候群はどんな病気?

A 「急性心筋梗塞」と「不安定狭心症」を併せた病気の総称です。

心臓の筋肉(心筋)に酸素や栄養を供給するための血管(冠動脈)が突然詰まる病気です。心臓突然死を起こす可能性があります。急性心筋梗塞では血管の閉塞によって心臓そのものに血液が流れなくなり、時間とともに心筋が死んでしまいます。そのため一刻も早い治療が必要となります。急性心筋梗塞では35%の方は病院到着前に死亡し、救急車で搬送され早期に治療を受けた方の救命率は90%以上といわれています。

Information

当院での血栓回収療法の1例

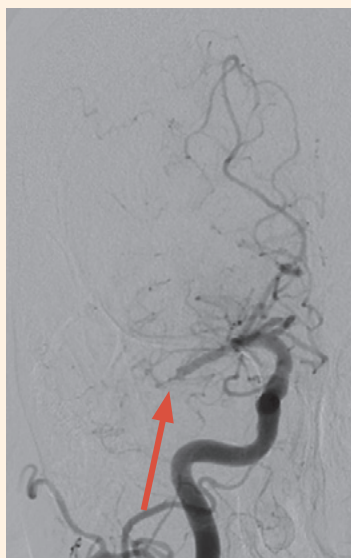
脳神経外科 部長 山下 太郎

当院では、入院中に脳梗塞が起きた場合に備えて、迅速な治療ができるよう取り組んでいます。

今回ご紹介するのは、心不全で入院された90歳の病客さまで。

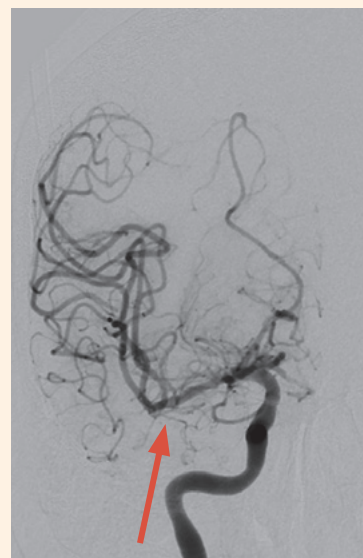
- ・18時29分 病室内で転倒。左半身が全く動いていないことに看護師が気づく。脳卒中の疑いでドクターコールを要請。
- ・18時46分 頭部CT検査。脳梗塞と診断。脳血管カテテル室へ直行。
- ・19時8分 脳血管内治療医、循環器内科医でカテテルによる血栓回収を開始。
- ・19時29分(脳梗塞発症から1時間後) 完全再開通。治療直後より左半身麻痺は回復。翌日から普段どおり歩行可能。後遺症は全く認めなかった。

後日、脳梗塞の原因である心臓弁膜症に対する外科手術を行いました。早期発見、早期治療により、後遺症も無く退院することができました。



〔治療開始時〕

右中大脳動脈の閉塞を認めました。矢印の部分で血栓が詰まっています。



〔血栓回収後〕

血栓がなくなり、完全に再開通しています。

Q どんな症状が出ますか？

A 「胸に締め付けられるような圧迫感や激しい痛み」などがあります。

発症した場合、一刻を争う事態なので即座に救急要請(119番)をしましょう。一方で全く痛みを感じない方も約20%います。特に糖尿病の方や高齢者に多く見受けられます。

主な症状

- ・胸に締め付けられるような圧迫感や激しい痛み
- ・持続性の胸痛と呼吸困難
- ・呼吸困難感や吐き気など

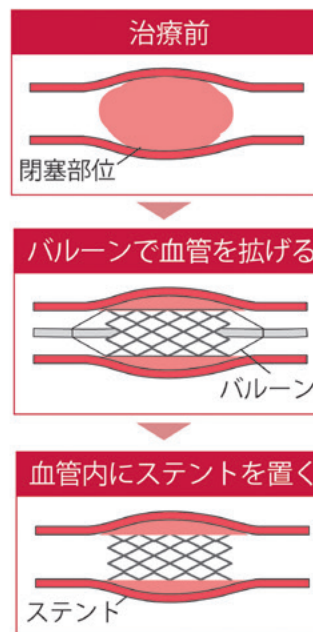
Q どのような治療法がありますか？

A カテーテル治療と冠動脈バイパス手術があります。

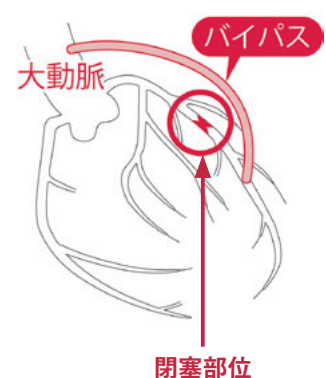
急性心筋梗塞の治療の第一選択はカテーテル治療です。手首や足の付け根から細い管(カテーテル)を血管内に挿入します。風船(バルーン)や金属の筒(ステント)で塞がった血管を拡げて、再び血液を流す治療です。一方、冠動脈バイパス術は詰まった血管の先に別の血管をつなぐことで、血液の流れをつくる手術です。病態に応じて、最適な治療方針を決めています。

また、急性心筋梗塞は日中のみならず夜間でも起こる病気です。前もって予測するのは困難です。当院では24時間365日いつでも病客さまを受け入れ可能です。循環器内科医、心臓血管外科医、専門スタッフが体制を整えています。

カテーテル治療



冠動脈バイパス術



高血圧と脳・循環器疾患

循環器内科 部長 武 寛

高血圧は、血圧が高くなる状態です。診察室での血圧は、その時測定した1回での評価になります。最近では、家庭での血圧測定が重要視されています。診察室血圧と比べると、家庭血圧の方が低くなるので、基準も低くなっています。

高血圧は、心臓自体に負担がかかります。心筋梗塞や心房細動、心不全の発症が増えます。しっかりとした血圧管理が必要です。

心房細動は、左心房にある肺静脈が勝手に興奮し、脈が速くなる病気です。動悸や心不全を起こします。また左心房が不規則に収縮す

るので、左心耳の血流が低下し、血栓を生じます。血栓が脳血管に流れると、脳塞栓の原因になります。高血圧などのリスクがあれば、脳塞栓予防に抗凝固薬が必要です。症状のある心房細動は、アブレーション治療や薬物治療の適応となります。

[高血圧の基準]

診察室血圧: 収縮期血圧140mmHg以上もしくは拡張期血圧90mmHg以上
家庭血圧: 収縮期血圧135mmHg以上もしくは拡張期血圧85mmHg以上

Medical
Info

クスリがリスクとならないために

～薬剤調整入院のススメ～

病気によっては薬物療法が必要です。一方で、副作用を含む望ましくない影響(有害事象)が現れることがあります。近年では「ポリファーマシー(多剤併用)」という造語が生まれ、薬の有害事象が社会問題となってきました。

心不全では、複数疾患の治療が必要となり、薬の種類や数が多い特徴があります。加齢とともに臓器機能は低下します。そのため薬のリスクに耐える力は徐々に低下し、有害事象が発生しやすくなります。

定期的に病状・生活背景の見直しを行い、医学的根拠に基づき処方調整を行うことが重要です。

当院では多職種(医師・薬剤師・看護師・作業療法士など)連携によるポリファーマシー対策を行っています。薬の調整に対して病客さまの不安や安全性への配慮として、2週間程度の入院をお勧めしています(薬剤調整入院)。わからないことがあれば、お気軽にご相談ください。

薬剤調整入院をお勧めする病客さま

- 調子が悪いときの薬をそのまま続けている
- 処方されている薬の目的がわからない
- ふらつきや眩暈が頻繁におきる/血圧が低い(高い)
- 薬の種類や数が多く頻繁に飲み忘れる/食欲がわからない



連携医療機関のご紹介

大上クリニック

〒709-0631

岡山県岡山市東区東平島135-6

TEL:086-297-3535

【大上康広院長に伺いました】

大上クリニックでは診療を通じて、皆様が元気に生活していただけるようサポートします。丁寧にお話を聞かせていただき、皆様のお悩みにしっかりと向き合います。ちょっとしたことで体の不調でお困りのことについて、何でもお気軽にご相談ください。一人ひとりに合った治療を提供します。



診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○
15:00~18:00	○	○	○	休	○	休

<https://oue-clinic.com>

休診日

- ・木曜日午後
- ・土曜日午後
- ・日曜日
- ・祝日

診療科目

- 一般内科
- 一般外科
- 呼吸器内科
- アレルギー科

榊原病院からのアクセス

車 | 約30分

